

「誰も取り残さないクラス」 にするために



只見中学校1年生 齋藤 楓

私達のクラスは入学して十ヶ月が経ち、色々な会話をするようになりました。それは、同じクラスの仲間として過ごす時間が増え、仲が深まってきたということだと思います。

しかし、そんな私達のクラスにも問題があります。例えば、あいさつをする時と返さない時があることや、人の悪口を言ってしまう時があることです。そして、私が一番の問題だと考えているのは、「いつも同じ人と一緒にいる人が多いこと」です。仲の良い友人がいる人は多いと思いますが、私達のクラスは、仲の良い人とばかり関わっていて、それ以外の人と関わるのが苦手な人が多いように思います。それに関わる私の経験で、こんなことがありました。

ある日私が登校して友人と一緒に教室に入ると、ある人が一緒に友人にだけ声をかけて、私には声をかけてくれなかったことがありました。その人の気持ちは私にはわかりません。話しかけにくさを感じていたのか、話題がなかったのかもしれない。しかし、その時はとても悲しい気持ちになりました。

その日の夜、このような悲しい思いをする人を少しでも減らすためには、どうすれば良いだろう？と考えてみました。そうして考える内に思いついたのが、あいさつを大切にす

ることでした。中学校では、「みそあじ」といって、学校生活で大切な四つの大切なこと、「身だしなみ」の「み」、「掃除」の「そ」、「あいさつ」の「あ」、「時間を守る」の「じ」の頭文字で作られた言葉を合言葉にしています。

改めて考えてみると、あいさつは、たとえ相手に話にくさを感じたり、話題が思い浮かばなかったりしても言葉を交わすことができるので、コミュニケーションの始めにぴったりだと思います。私は、そう考えるようになってから、どんな人にも積極的にあいさつをするように意識しています。そうするようになってから、今までなかなか話せていなかった人とも、少しずつ話せるようになってきました。この経験をクラスの皆に教えて、いままでもっと仲の良いクラスにしていきたいと思います。私を感じた「あいさつ」の大切さですが、只見町の中ではどうだろう？と思いました。

そんなことを意識して自分の家の周りや、普段よく行く場所の人達の姿を見ていると、只見町の人達は、日ごろからあいさつをしていて、それだけでなく、お話もたくさんするということに気づきました。

その時は、只見町は人のつながりがあったて温かい町だなと感じまし

た。冬は寒さが厳しく、雪もたくさん降りますが、この「人の温かさ」が只見町の良いところだと思います。かつて、只見町を襲った豪雨災害もきつと町の人達で声を掛け合い、支え合いながら乗り越えてきたのだと思います。

皆さん、最近の生活を振り返ってみてください。あいさつはできていますか？人とのつながりを大切にしていますか？普段から声を掛け合い、お互いに支え合える只見町をこれからも残していきたいです。

そのために、私達中学生も、只見町の一員として、あいさつや互いを思いやる気持ちをもって、つながりを大切にしながら生活していきたいです。



只見中のSDGsの取組と 私たちにもできること



只見中学校2年生 齋藤 有紗

みなさんは、SDGsという言葉を知っていますか。これは「サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ」の略で、現在世界が直面している課題に対して十七の大きな目標を示し、それを達成するための細かなターゲットが百六十九設定されているものです。SDGsは国連が定めたものなので、私が中学生になる前は、ニュースで聞いたりしても、色々な国が解決するものだとか考えられず、身近に感じることもありませんでした。しかし、中学校でのSDGsに関する学びや活動を通して、SDGsは国籍や老若男女を問わずすべての人が取り組まなくてはならないことであり、それはただの学生である私達も例外ではない、ということがわかりました。そう思ったのは、一人一人の力は小さくとも、その力が集まれば大きな力となり、地球を守り、より良い方向へ変えることができる様々な経験を通してわかったからです。

現在、中学校でSDGsを意識して取り組んでいる新聞バッグ作りは、直接海をきれいにするわけではありませんが、海洋のプラスチックごみを減らすための活動になっています。山間地の只見と海は一見つながりが薄いように思われがちですが、只見は川を通して海と密接につながっています。只見を流れる只見川は、日本海へ流れる川の上流に位置する川なので、只見川にごみが捨てられれば、それはそのまま日本海に流れ着き、海洋ごみになってしまふのです。それだけでなく、もしそのゴミがプラスチックであれば、流れていく間に徐々に分解されてマイクロプラスチックとなってしまい、回収するのが難しくなるのです。このように、私達の生活が海に及ぼす影響は小さくないのです。

逆のパターンもあります。長い間問題視されている地球温暖化の影響で海水温が上昇すると、雨が増えると言われています。以前、新潟福島豪雨の被害を受けた只見町の写真を見たり、話を聞いたりしたことがあります。自分の町で本当にこんなことが起こったんだと、信じられないくらい酷い災害だったのだと知りました。あの災害は、悪い条件が重なって起こったものでしたが、このまま地球温暖化が進むと同じような災害が起きてしまうかもしれません。

このようなことは、世界中でも考えられます。私達は昨年、キリバスという島国に住んでいるケンタロ・オノさんの話をリモートで聞きました。その話によると、現在キリバスでは地球温暖化の影響で海水面が上昇してしまい、国土が海に沈みつつあるそうです。それだけではありません。キリバスの人々が使う水が海水でダメになってしまい、生まれたばかりの赤ちゃんが生きるために海水を飲んでいふのです。

このような辛い思いをする人達を減らすために、環境に負担をかけるようなことはひかえるべきですが、完全になくすことは難しいと思います。しかし、地球の人間が一人一人少しずつ環境を意識した行動ができれば、地球の環境の悪化をくい止める力になれるのではないのでしょうか？

大切なのは、小さなルールを定めることと、気づいたときに取り組むことだと思います。

例えば、買い物にマイバッグを持っていくことや、なるべくペットボトルを買わないなど、簡単なことから始め、それを広げていくとよいと思います。

地球の環境を守るために、皆さんもぜひ、できることから実践してみてください。



『身近な差別』に 気付いていますか？

只見中学校3年生 堀金 康太



皆さんは、「差別」についてどのくらい知っていますか？

私は以前、テレビのニュースで、ジョギングをしていた黒人の方が白人に銃で撃たれたという事件について知りました。私はそのニュースを見て、怒りがこみ上げてきました。

なぜ、同じ人間なのに、肌の色の違いだけで差別され、一方的に暴力を振るわれなくてはならないのでしょうか？肌や目の色の違いだけで、人の性格や思想の判断ができるのでしょうか？私は、絶対にそんなことはできないと思います。また、人との間にトラブルがあった時、暴力でも何も解決できません。それどころか、互いの中に憎しみが残るだけで、良いことは何も無いと思います。

話は変わりますが、皆さん自身は差別をしたことがないか？自信をもって言うことができますか？私は、自分が気づかない内に差別をしていたことがあります。

昔、人の性格や内面を外見だけで決めつけてしまい、人によって対応を変えてしまう、ということをしてしまったのです。そのことを思い出したとき、自分のその時の行動は、ニュースで見た「黒人差別」と変わらないようなひどいことだったのだという事に気づきました。そしてすぐに自分の行動を後悔しました。

差別を受けた人は、その心に深い傷を負ってしまいます。それどころか、差別が原因で命を奪われてしまったり、自ら命を絶ったりすることもあると考えられます。私たちが思っている以上に、差別というものはそれを受けた人たちに辛い思いをさせているということに、気づかないといけないと思います。

そしてその差別というものは私たちが住む只見町にも存在しています。例えば、町のお店の中などで、マスクをしているにも関わらず、せきやくしゃみをするだけでその人を見つめる人を見かけました。これも、感染症に対する思い込みと差別から来てしまうものだと思います。自分では差別をしていないつもりはなくても、気づかぬうちに差別になっただけでいることが私たちの生活の中ではたくさんあると思います。しかしその差別は、場合によっては人の命を奪いかねないということをお忘れないうちにしたいものです。

差別をなくすためには、発言や行動をする前に相手の気持ちや立場を思いやり、自分の立場に置き換えて判断することが大切だと思います。そういう心遣いを広げていくことで世界から少しずつ差別をなくしていきたいと考えています。

すために、まずはこの只見町を、相手を気遣い、思いやることのできる優しい町にしたいです。そのためにどうか力を貸してください。よろしくお願いします。



誰もが行ってみたい 只見町



只見高校1年生 菊地 新大

みなさん、こんにちは。私は、只見町で暮らして今年で十六年目になります。私は只見町のダムや旅行村などの場所が好きです。

しかし、現在の只見町は若者のための場所が少ないと感じています。そのため休日に気軽に遊びに行ける場所がありません。

このような機会をいただいたので、本日は、「若者も楽しめる只見町」について、私なりの視点で考えたことをお話しします。

まず、一から何かを作るのではなく、今あるものを活用する方法を提案します。

第一に、現在ある町民プールを室内プールにすれば良いのではないかと考えます。町民プールを室内プールにすることで、施設を一年中使用することができるようになります。そうすれば、活用の幅が広がり、若者だけではなく、全世代の人達が使用することが出来ます。

第二に、只見町にも多くある空き家をカフェなどにすれば良いのではないかと考えます。

ネット接続が可能な環境を整え、お金のない学生でも利用しやすく、新たな憩いの場が生まれます。

第三に、心志塾に一人で勉強できるスペースを設置すれば良いのではないかと考えます。現在の心志塾は、全員が集まって勉強会をしていると

友人から聞きました。勉強を集中して行いたいという生徒も少なくないと思います。残念ながら、福島県は全国的に見ても学力が低い県です。一人で勉強ができるスペースを設けることで入塾者が増え、只見高校生の学力向上にもつながると考えました。学習環境が整うことで、只見町に来る若者が増えると思います。

次に、現在只見町にないもので、あつたら良いと思うものについてです。

第一にボウリング場です。昔は只見町にも実際にあつたと伺っています。みんなで遊べる場所が町内にできれば、自然と若者が集まるのではないかと考えます。

第二に、木を使ったアスレチックを作るのが良いと思います。やはり只見町の魅力は豊かな自然だと思えます。その魅力である自然を利用したアスレチックを作れば、町外へのPRにもなるのではないかと考えました。

第三に、大きな公園があると良いなと思いました。広い公園にすれば、小さな子供達だけではなく、多くの人達が利用し、会話が生まれる場所になるのではないかと考えました。憩いの場での交流をきっかけに、只見町に活気が生まれることにもつながると思います。

第四に、一人の時間を過ごせる場

所があると良いと思います。一人の時間を過ごせる場所には、カフェやレストランなどがありますが、私は特にネットカフェが良いと思います。個室になっており、一人の時間を確保して集中することが出来ます。さらにパソコンなどを置けば、勉強をした際などに調べものができる、作業効率が向上すると思います。

第五に、インスタ映える場所、物を作れば良いと思います。みなさんは「インスタ映え」という言葉をご存知ですか? 「インスタ映え」とは、インスタグラムというスマートフォンアプリに投稿した際に「見映えの良い」「印象的」な写真のことを指します。流行するか否かはインスタ映えるかどうかが左右する点もあり、とても重要です。

只見町にもインスタ映えスポットはたくさんあります。大自然などの私たちにとってあたりまえの景色にも改めて目を向けることで若者が増えることは間違いありません。

このように、只見町の今ある魅力、そして流行を利用して、若者のための場所を作ることが提案します。きっと只見町の未来を担う若者達が只見町に増えてきます。ぜひ大好きな只見町の未来のために、私の考えを聞いていただけたらともうれしいです。

将来の目標



只見高校1年生 鈴木 莉子

私の夢は子供達に慕われる保育士になることです。幼い頃に通っていた保育所の先生に憧れたことがきっかけでした。いつも笑顔で、ダンスや読み聞かせも全力で、このように素敵な大人になりたいと思いました。また、中学生のときには、職業体験で保育所に行きました。小さい子供と触れ合ったことで、通っていた頃には知らなかったことを知り、保育士になりたいという気持ちが強くなりました。

高校入学後、私は本格的に保育士を目指すために、真剣に進路のことを考え始めました。高校でも職業体験があったので、迷うことなく保育所での体験を希望しました。職業体験は二日間で、中学生のときにお世話になったところとは違う保育所に伺いました。体験が始まって一番に知ったことは、保育士は体力が必要な仕事だということです。保育所の子供達は、だっこをせがんだり、追いかけてこの鬼をしてほしがったりと、初対面の私にとってもフレンドリーに接してくれました。子供達は疲れを知らないのか、お昼ご飯の時間になるまでずっと走りまわっていたので驚きました。私は部活動で剣道部に所属しているので、剣道を通して一日中子供達の相手をできるような体力をつけたいです。

また、体験中にとっても印象に残った出来事があります。絵を描く時間

に子供達が黙々と取り組んでいて、指示された時間を過ぎてしまった時のことです。私は、時間を知らせるべきか担当の先生に伺いました。すると、先生は、「自分達で気がつくまで待っていてあげて」

とおっしゃいました。その時、子供に接する際には、教えるだけでなく、自分で気づかせることも大切なのだと知ることができました。

二日間の体験が終わり、家で日誌をまとめながら、保育士は、自分が思っていた以上に忙しく、重要な仕事だと思いました。私が以前に読んで漫画のセリフで、印象的なものがあります。

「子供って乾く前のセメントみたいなんですって。落とした物の形がそのまま跡になって残るんですよ」

子供達は一日の多くの時間を保育所で過ごします。そのため、保育士の何気ない言動が子供達の未来まで関わるかもしれないのです。子供を預かる上で「子供が好き」という思いだけでではなく、責任が伴うことを実感しました。私の中で、保育士への考え方が変わりました。

私には、保育士になるために克服しようとして挑戦していることがあります。第一に、物事を効率よく進めるといことです。中学生の頃から、生徒会に入ったり、合唱の伴奏者だったり色々なことをしてきました。

しかし、一気にたくさんの仕事をしなくてはいけなくなると、どれか一つにしか集中できなくなり、他のことがおろそかになってしまいます。複数のことも同時並行で進めていく力は、社会人でも必要なことだと考えました。中学校では一度諦めてしまったのですが、高校でも頑張ってみようと思いました。生徒会に立候補し、活動を始めてからは、積極的に仕事をするようにしています。部活動も勉強も忙しいですが、すべて完璧とはいかなくても最低限のことではできるように、自分なりに努力していきたいです。

第二に、人として成長することです。私は子供達が一番最初の先生としてふさわしい存在になりたいと思います。そのために、私がこれから大切にしたい言葉は、「人は鏡」というものです。これは、部活動の顧問の先生のお話によく出てくる言葉です。保育士になる上でとても大切な考え方だと思うので、意識して生活していきたいです。

実は、私は努力をすることがあまり得意ではないと思っています。辛いことや苦しいことが苦手です。すぐに逃げてしまうからです。しかし、今回はこのような機会に恵まれました。初心を忘れることなく、改めて気を引き締めて生活したいです。そして、夢の実現に向け、日々諦めずに努力していきたいと思っています。

努力とは



いわさ ゆうせい
只見高校2年生 岩佐 優生

私が生きる上で大切だと思うことは、努力をすることです。なぜなら、努力とは自分の力で生み出すことのできる価値のあること、自分に意思が無ければ続けることが出来ないことだからです。努力を積み重ねていくことは大切です。また努力をすることそのものに意味があり、かけた時間は自分だけの大切な経験になると考えています。

今でこそこのように考えることができるようになりましたが、昔は中学生の頃にバスケットボール部に所属していました。ある時、シユートがうまくならない不安を抱えていて、バスケットボールを嫌いになってしまいました。しかし、ある一人のプロバスケットボール選手の動画を偶然見つけました。アメリカのプロバスケットボールリーグNBAのロサンゼルスレイカーズに所属していたコービー・ブライアント選手の動画です。彼は努力の天才です。私が感銘を受けた言葉を紹介させていただきます。「自信喪失する事もある。不安になることもある。失敗への恐怖を持っている。僕らはみんな不安を抱えている。それは否定しなくていい。だが見過ごす必要もない。その不安を抱きしめるんだ」

本人は全く気にしていないんだ。周囲の人たちは気の毒に思ったかもしれないが、本人は全然平気だったよ。そんなことよりも失敗の原因を突き止めることが先なんだよ。失敗には必ず根本的な原因があつて、その問題と向き合えば解決する」

このように、彼は落ち込むよりも前に、なぜシユートが入らないのかと考え、分析し、その問題を解決していきましました。この話を聞いて私は感動しました。なぜシユートが入らないのかを彼のように分析し、問題を見つけて意識しながらシユートを打つようにしました。練習しているうちに安定してシユートを決められるようになり、努力をすることが楽しいと感じました。

コービー・ブライアント選手は、分からないことがあれば誰かの真似をし、そこから学んでいく努力をしていました。私も実践してみたのですが、真似すること自体は簡単でも、自分の力にするのが難しかったです。しかし、真似をするのが楽しさ、物事を学ぶ大切さを感じる事ができました。その他にも彼から学べる事が多く、これからの彼の活躍に期待して日々を過ごしていました。

しかし、そんな私を絶望させる出来事が起きました。二〇二〇年一月十六日に、娘と一緒に乗っていたヘリコプターが墜落して、コービー・ブライアント選手らが命を落としてしまふ事故が起きました。私は悲しみ、ショックを受けました。コービー・ブライアント選手は、私に努力する大切さ、不安を持っていてもよいということ、これからのように生きていくべきかを示してくれた

恩人であり、最も尊敬する人物です。彼が生きた証として、その言葉を大切にしたいと心から思いました。

私は高校入学後も彼の教えを胸に様々なことに取り組みました。最近、大きな挫折を経験しましたが、冬季球技大会でのことです。イベントは生徒会が主体となって運営しました。当日は全校生徒の楽しむ姿が見られ、無事に開催できたことも評価していただきました。しかし、頭の中に多くの課題が浮かんできました。やるべき仕事を完ぺきに行うことができず、自分のふがいなさを実感しました。とても悔しかったです。事前準備がしっかり行えず、役割分担や当日の動きを最後まで入念に確認し、準備をすることができていませんでした。しかし、この経験を活かして今年の秋に開催予定の大文化祭を大成功で終われるように努力したいと思います。

そして、もう一つ目標があります。それは、親に恩返しすることです。地元の埼玉県から遠く離れたこの只見町で楽しく生活できているのも町や親の支援があるからです。ずっと支えてくれて、見守ってくれて、帰省した際には温かく「おかえり」と言ってくれる親に、これまでの感謝と敬意を「ありがとう」という言葉で伝えたいです。

最後に、私はコービー・ブライアント選手に出会えたことを一生の宝物だと思っています。これからも、努力を大切に、彼から学んだことを忘れずに生きていきたいと思ふます。そして数々のことを経験してこれからの人生につなげていきたいと思ふます。